

Development and the effects of the Lesson Plan on Clothing Education at the Special Needs School: Learning about Thinking "Wearing Colthes"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/32775

特別支援学校での衣生活の授業開発と有効性 －「着る」ということを考える学習－

Development and the effects of the Lesson Plan on Clothing Education at the Special Needs School
:Learning about Thinking “Wearing Clothes”

綿引 伴子・下野 令子*・北潟 理美*

WATAHIKI Tomoko, SHIMONO Reiko*, KITAGATA Michimi*

研究の背景

年齢、性別、障がいの有無や程度にかかわらず、着ること・装うことは、日常生活を刺激し情動を活性化する効果がある。装うことは生活を豊かにし、人生を楽しむうえで大きな役割を果たす。

人間は、他人の目を通して自分の着る物を意識している。自分がどう見られるかというのが自意識であり、自意識は人とかかわりを通して育まれる。衣服に対する関心は、集団や社会に同調化することから始まり、やがて独自性の追求へと発達していくと言われている（中川、1989）。また、「装う」ことを通して周囲の人との距離の取り方、社会との距離の取り方を学ぶことに発展するものと考えられている（鷲田、1998）。この点からみて、中高生が自分や友だちの衣服に関心をもつことは、発達段階上重要な意味があるといえる。

特別支援学校の生徒にとって、場面や状況によって衣服を選択することを理解したり、衣服や持ち物に対して自分の好みを伝えたり、どんな自分でありたいかを考えたりすることが難しいことがある。障がいによっては自分が周囲の人にどんなふうに見えているのかという客観性や自意識をもつことが難しく、それが着るものへの関心の低さに関連している。衣服への無関心さが、外見から障がい者であることをきわだ

たせてしまうこともある。

衣服を買う行為として、予算を決める、店へ行く、気に入った衣服を探す、試着する、値段を確認する、サイズを確認する、購入する、ファッションを楽しむなどがある。衣服を買う時に障がいをもつ人が感じる不安も様々である。予算の立て方や店の選び方、衣服の表示の見方やサイズ、買い方や計算がわからない、高いものを買わされるのではないか、お金は足りるだろうか、恥をかくのではないかという心配。店員にはやさしくアドバイスをしてほしいが店員の言っていることがわかるだろうか、自信がなくて緊張してしまうのではないかというコミュニケーションの問題。「衣服を買う」といった日常で不可欠なことなのに、障がいをもつ人にとってそのハードルは高い。

衣服を購入する行為を学ぶことは、買うためのスキルを身につけることに留まらない。人とかかわる、目的と見通しから計画を立てる、自己主張する、多様な点から考えて選択したり判断したりする、結果を振り返り次に活かすなどの力を育むことになる。それらは自立のために必要な能力であり、衣生活だけでなく生活全般への意欲にもつながる。

ところで、特別支援教育と家庭科教育には関連性がある。いずれも生活主体者を育むことや生活的自立を促すことを中心的に取り扱ってい

る。特別支援教育の高等部には、家庭科が教科として位置づけられているが、それ以外にも生活単元学習など家庭科に関連する内容が多く含まれている。

家庭科教育学のこれまでの研究をみると、特別支援教育に関する論文はそれほど多くない。食生活教育に関する研究では、伊藤による知的障がい児に対する栄養教育についての一連の研究がある(伊藤, 2005)。衣生活教育に関する研究では、さをり織り指導を通した自閉性障がい者の行動障がいの改善(中川・藤田, 1997)や、肢体不自由養護学校における衣生活教育に関する教師を対象とした調査(雙田・鳴海, 2006)がある。

雙田・鳴海の肢体不自由養護学校における衣生活教育に関する教師を対象とした調査によると、小学部・中学部・高等部いずれの教育課程でも、教員は、重視する児童・生徒の衣生活に関する能力として、「自分の好きな衣服を選ぶことができる」「自分の好きな衣服を購入することができる」「自分の衣服の好みを他者に伝えることができる」をあげているが、授業ではほとんど実施されていない。実際は、染物や手芸、小物づくりなどがよく取り上げられ、これらは障がいの程度と関係なく重視して行われていた。その背景の1つとして、家庭科教育の目的である「生活者としての自立」を「身辺自立」として狭義にとらえているためではないかと指摘されている。この研究は、肢体不自由養護学校を対象とした調査であるが、知的障がいを重複する生徒が約3割含まれており、参考になる知見である。織物や編み物などの手を使う作業は、障がいの特性によっては取り入れやすい活動である。一方で、「自分の好きな衣服を選んだり買ったりする」学習や「自分の衣服の好みを他者に伝え表現する」学習では、作業的なことを取り入れ難いため、どのように学習を構想すればいいのか教師たちは苦悩しているものと推察される。児童・生徒が生活者として自立していくうえで、障がいの程度に応じながら、衣服

の選択、着装、購入などの場面で意思決定できる力を養う衣生活教育が今後ますます必要であると述べられている。

近年、家庭科教師が特別支援教育に携わることが増えたため、特別支援教育での家庭科にかかわる実践が以前よりも報告されるようになった。家庭科の実践をほぼ毎号掲載している雑誌「家庭科研究」(家庭科教育研究者連盟, めばえ社)では、それまでの「小学校実践」「中学校実践」「高校実践」の分類に加え、2007年4月から「障害児教育実践」の欄が設けられた。2007年4月～2012年2月(隔月発行)の「障害児教育実践」に掲載された総数18実践のうち、食生活に関するのは9実践、衣生活に関する実践は4実践である。衣生活4実践すべてが、織りや縫いを教材にしたものである。

先に述べた雙田・鳴海により重要性が指摘された、衣服を選んだり買ったりする内容や衣服について表現する内容を取り入れた学習はたいへん少ない。「家庭科研究」では、「身につけるものを通して自分を表現できる」題材としてファッションショーを実施した授業が掲載されている(間賀田, 2003)。「生活単元」の「心と体」の一単元で扱い、校外学習で購入した衣料やアクセサリに合う私服や小物を身につけてファッションショーを行っている。盛り上がった雰囲気とBGMのメロディーに、介助されることが多い生徒が1人でリズムカルに歩いたり、ダンスワークを披露したりして、どの生徒も注目を浴び自己評価を高めていた。実践者の間賀田は、知的障がい者は言葉での対話が苦手なため、自己認識や言葉での表現が弱い、好みのものを選び身につけることは、自分を見つめ、表現し、親からの自立を促す一歩になりうると述べている。

生徒の状況

生徒の障がいの状態や家庭や学校での生活の状況は表1(1年生)、表2(2・3年生)に示した。対象の生徒16名には知的に障がいがある

が、そのうち自閉症を伴う生徒が7名、発達障がいや注意欠陥を伴う生徒が3名いる。軽い麻痺がある1名以外は身体的な障がいはない。生徒により障がいが異なりまた能力差が大きい、特別支援学校の生徒にはいくつかの特徴的な様子が見られる。

知的に障がいがあると状況や好みがよくわからず場面に応じてははっきり言えない場合があるため、本人でなく周囲が決めたり選んだりしがちである。「自分はこれを好き」と言う前に、「これはあなたに似合う」「好きだよ」と大人に言われると、同調してしまうことが少なくない。家族は、本人の意思表示がないからと、幼児期から使用しているものや親世代が好むものを持たせたり、サイズの合わない衣服を着せたりする場合もある。知的障がいのない生徒よりも、家庭の経済状況や親の意識・センス、きょうだいのアドバイスなど親やきょうだいの影響を受けやすいといえる。表1, 2を見ると衣服や持ち物へのこだわりのない生徒もいるが、何らかのこだわりがある生徒が比較的多い。しかし、衣服に対する状況や教師の課題意識からは、自己表現や自己選択が十分されているとは言えない。

また、周囲の人からどのように見られているか意識するなど集団の中で自分を相対化することが難しく自己意識の低い生徒が多い。

自閉症の人にとっては、感覚過敏であることも少なくない。襟ぐりの空いた衣服や短いズボンなど形や素材を優先する生徒がいる。同一性保持（こだわり）の傾向をもつ生徒は、気温の変化に合わせて衣服を変えることが非常に苦手、冬服から夏服に変えるということができない生徒もいる。教師の言葉による指示が理解できない生徒は、周囲を見てそれと同じようにすることでいろいろな場面を乗り切っている。周りの生徒と同じであったり、以前に承認を得た衣服であったりすると安心して着ることができる。

集団の中での自分を意識しており着ることへの関心もち自分で好みのものを選ぶことがで

きる生徒は2名いるが、全体としては衣服やその他の生活全般において意思決定・自己選択ができていない生徒が多い。障がいによる影響だけでなく、生活環境も関連していると思われ、学習による効果が期待できるのではないかと考えている。

高校生全般について言えば、衣服に興味のある生徒もない生徒もいるだろうが、全体的傾向としては他の世代よりも流行に敏感でファッションに興味をもつ人が多いだろう。企業からは消費のターゲットとされている。制服の着方や髪型、靴下、持ち物などで個別化を図ろうとしたり規範への反抗を示したりする。一方で、個性的であるというよりは企業やマスメディアが煽る流行を積極的に取り入れ消費文化に絡めとられているとも言える。意識的、無意識的に同世代や仲間との同調意識が強く、自分が所属する集団からずれ過ぎないことに敏感である。知的に障がいのある場合、衣服の社会的意味を読み取ることは困難である。本授業で対象としている生徒たちは、このような同世代の衣服に対する意識をあまりもっていない様子が見えてくる。

研究の目的

以上から、本研究では、特別支援教育において重要性が指摘されながらも授業開発が進んでいない「自分の好きな衣服を選ぶことができる」「自分の好きな衣服を購入することができる」「自分の衣服の好みを他者に伝えることができる」ことを意図した学習内容を含めた衣生活の授業を開発し、その授業を実践し分析することにより学習の有効性や課題を明らかにすることを目的とする。なお、題材のテーマは、「着る」ということを広く多面的にとらえることと、知識提供でなく生徒が考えることを重視する学習の意味を含めて、「『着る』ということを考える授業」とした。

表1 生徒の状況(1年生)

生徒	実態	衣服に関する家庭の状況	教師の課題意識	家庭での過ごし方	買い物の能力	持ち物のこだわり	理解力・普通の授業の様子
A	自閉症。漫画が好きで、特定のキャラクターにこだわり毎日ノートに描く。母親が本人の事を決めることが多い	母親が選ぶが、兄がいることもあって、同年代と同じような服装をしている	身に着けるものを自分で一点選べるとよい	キャラクターの人形を並べたり、ゲームをしたり、漫画を描いたりしている	家の人とコンビニやビデオ店へ行くが、1人でさせてもらってない	キャラクターものが好きである	興味のないことは聞いていなかったり、考えようとしなない。授業中は座っているが、ごみを捨てたり手を洗うために立席したりする。興味のある単語を聞くとそれに関する知識を口にする。理解力は5段階で2.5
B	知的障害・中度。軽いマヒがある。オシャレや彼氏に興味がある	自分で選ぶ。母や姉のアドバイスをよく聞いている。母親と衣服を買いに行く。オシャレに関心がある	衣服に関しては特になし。友だちに前向きなアドバイスができる存在	手伝いをしたり、メールをしたり、テレビ(歌番組など)を見たりしている	1人で本屋に行く。コンビニスーパーは家人と行く	かわいい物や同年代が興味をもつ物を持つ。派手なものは持たない	真面目で優等生。知識や経験を統合して自分の考えを述べることができる。授業中座ってられる。難しい時には簡単にあきらめることもある。理解力4
C	自閉症。一人っ子で過保護に育っており、日常の生活動作は母親が支援する。自主性が乏しい	母親が選ぶ。父の年代が高いこともあって、年齢より上の世代が好む衣服を着ている	自分の着ているものについて意識して考える	パソコンで遊ぶことが多い(YouTube、動画サイト)	1人で買い物をしていない。家の人と本屋やデパートに行く	特になし。持たせられたものをそのまま持つ	算・漢字は小5年生段階までできる。生活経験が少ない。一斉の問いかけは聞いていないことが多い。個人的に質問することが必要。理解力3
D	知的障害・中度。注意欠陥で同じことを何度も指摘されるが改善しない。子どもっぽい	母親と衣服を共有。ページ系・ワンポイントのトレーナーなどラフな衣服が多い。一人っ子	友だちの衣服や持ち物に関心を持ち、意思表示できるように頑張ってほしい	簡単な手伝いをしている(米をぎ、洗濯)。しりとりや宿題をする。休みの日には友だちと遊ぶ	たまに1人でコンビニに買い物に行く。それ以外は家人と	特になし。持たせられたものをそのまま持つ	生活力が高く、自分の生活経験と照らして物事を考えることができる。授業には、聞いて参加している。難しい言い回しは理解できないが簡単な言葉で表すと受け答えができる。理解力3
E	自閉症。家庭の事情から基本的な生活リズムが作られてない。考え方に柔軟性がなくイメージする力が乏しいが友だちのすることをよく見ている	ジーパンとトレーナーやTシャツなどを合わせる。一人っ子	友だちを見て、衣服に関する意識を高める	以前は母親の車で出かけることが多かった。最近は家でゴロゴロすることが多い	1人で買い物ができる。買い食いもする	正しくありたいと思っているので、モデルを想定し相応の物を持つとする	基本が真面目なので、授業に「参加しよう」という気持ちがある。わからないことには「わかりません」と言うことができる。質問に関しては考えることができる。理解力3.5
F	診断名なし。幼少期のトラウマにより何に対しても真摯に打ち込めないところがある	自分で選べるが、兄や母のアドバイスも受ける。感覚的に嫌なようで長いズボンは好まない。ストリート系が多い。金銭的な限界がある。兄がいて洋服などを兼用している	衣服を選ぶことに、より意識的になる	ほとんどゲーム。時折漫画を描く	1人で買い物ができる。あればあるだけ使う傾向がある	自分なりに好きなものがあるが、金銭的な限界があり、「欲しい」とは言わない	知的には学年で最も高いと思われるが、授業態度は真摯さに欠ける。じっくり考えず適当に答えることもあるが、知的に高いためそれなりの回答を返すことができる。プリントなどを渡すと余白に漫画を描いていた。理解力4.5
G	ブラダーウィリー症候群。苦手なことに対しては固まってしまう。意思表示が難しい	いつもスポーツブランドの衣服を好んで着る。自分で選ぶことができるが、新しい分野を自力で開拓するのは難しい	着こなしの発表を通して、衣服を選んだ理由について考える	テレビを見る。家の人と過ごす	1人で買い物に行かない	持ち物もスポーツブランドが多い。保護者は本人の気持ちを聞いて購入していると思われる	理解力は低い為何にでもまじめに取り組もうとする。回答は「楽しかった」とか簡単な定例の言葉が多い。わからないことや慣れないことに関しては固まってしまう。理解力2

表2 生徒の状況 (2・3年生)

生徒	実態	衣服に関する家庭の状況	教師の課題意識	家庭での過ごし方	買い物の能力	持ち物のこだわり	理解力・普段の授業の様子
H	自閉症。多動、注意欠陥。やりたい気持ちは人一倍あるが空回りすることがある。感覚過敏もある	感覚過敏のため同じ形の衣服を選ぶことが多い。姉が2人おり選んでもらうこともある様子	自分で、衣服を選ぶ時のポイントに気付く。他の衣服も着てみようと思える	いろいろなイベントに参加する。好きなく教師とメールをする。水泳、書道、ドラムを習っている	自分の欲しい物ならばどこへでも行って買い物ができる	同年代の多くが持つ物を持っている。好きなキャラクターものがある	興味のないことは聞いておらず、腕などの産毛を口を使って抜いている。興味のある単語には反応し臍舌になる。機械的な計算や漢字は得意。耳から入る刺激より目から入る刺激の方が有効。理解力5段階の3
I	自閉症。感覚過敏。人との会話や行動にこだわり、同じようなことを繰り返す。物事の処理は1回に一つだけ。不器用で手先での微調整は苦手である	感覚過敏のため冬でも足や首が出るものを着ている。かわいい物はわかるが、素材はわからない。仕事の場でもかわいいジャージの上下を着て行ったりすることがある	他の生徒の着こなしや、そのポイントを知り、自分の衣服の傾向と比較できる	母親と出かけることが多い。テレビやDVDが好きである	買い物はできるが、1人で行動できない	かわいい物が好きだが、特に欲しいことはない	知的には高い。耳から入る刺激より目から入る刺激の方が有効。聞くことの方が話すことより得意な印象がある。授業中は教師の方をよく見ている。質問に関しては簡単な言葉や自分なりの言い回しで話すが、自分の興味のあることについて話すことを優先する。理解力3.5
J	発達障害。気になることが解決できるまで訴え続ける。男子向けのアニメやゲームが好きで、自ら「関係」という	似合う似合わない以前に、女の子らしい服装は好まず、ユニセックスな体の線が隠れるようなものを選ぶ。兄弟がいる	好きなものでなくても似合うものがあることを知り、許容の範囲を広げる	ゲーム、ビデオ、パソコン、漫画、アニメ(おたく系と本人は言う)	ほしいものに関しては、1人で買いに行ける	持ちたくないものが多い。自分の好きなキャラクターものは持ちたがる	興味のない授業内容の時には聞いていないことが多い。興味のあることに関しては非常に臍舌になる。質問には自分なりの回答を考えて言うことができるが、自分の話に持っていきがちである。理解力4
K	発達障害。マイペースでおとなしい。仕事は丁寧だが時間がかかる。絵を描くことが好きで、優先順位が一番は絵	自分で選べる。衣服は母と共有したり、同級生の保護者からのお下がりでも抵抗なく来ている。衣服に絵の具がついていても平気である。金銭的な限界がある。母親が病気である	他の生徒の着こなしや、そのポイントを知り、自分の衣服の傾向と比較できる	絵を描いていることが多い	経験が少ないが、1人で買い物に行く力がある。あればあるだけ使う	絵の道具に関してはよいものを欲しいると思えるが、衣服や持ち物に関しては表現上はない	興味のない授業内容の時には聞いていないことが多い。興味のあることに関しては臍舌になる。一斉に聞くや質問に答えられないことがある。個人的に聞くや自分なりの回答を考えて言うことができる。理解力4
L	自閉症。言葉での理解には限界がある。急な予定変更が苦手で混乱してしまう	母親の助言を受けて自分で選べる。体にびびったりした同じ傾向のものを着ている印象がある。兄が2人いるが県外におり現在一人っ子状態	自分の選ぶ衣服のポイントを知る	ビデオを見たり、体を動かしたりする	コンビニなどで1人で買い物ができる。	本人なりのこだわりはあるようだが、同年代の傾向と同じではない	興味のない授業内容の時には手遊びや気になる生徒を見ていたりする。耳から入る刺激より目から入る刺激の方が有効。気になる単語からいろいろな連想をしてそれについては臍舌になる。機械的な計算や漢字は強い。理解力3
M	知的障害 軽〜中度。一般の高校生らしいことに興味を示す。周囲の話をよく聞いており、話に入ってくる	自分で選べる。年相応の物を選ぶ。よりかっこよくなりたいという気持ちがある。母親と適度な距離感をもつ	大学生のアドバイスをを受けて、着こなしの幅を広げる。友だちの衣服を見てアドバイスができる	家庭菜園、車の本を読む。ギターを習っている	1人で買い物に行ける	同年代と同様の物を持っている。自分がかっこいいと思ふ基準がある	知識や経験を統合して自分の考えを述べるができる。一斉に対する問いかけも聞いていて回答できる。理解力4
N	ドウホイッツ症候群。苦手なことやしなければならないことに関しては逃げてしまう	自分で選ぶ。両親とも衣服に関心を持ちお金もかけることができる。同世代と同様の服装をしている。管理に関しては無頓着。一人っ子	他の生徒の着こなしや、そのポイントを知り、自分の衣服の傾向と比較できる	手伝い。マラソンやスノーボードなど親と一緒にサークルに所属している	コンビニなどで1人で買い物ができる	好きな衣服とそうでない衣服がある	努力は嫌いだ、よい評価はほしい。授業は比較的聞いていて、それに関連する回答ができる。他の生徒が気になって注意したりするため散漫になることがある。理解力3.5
O	クルーゾン症候群。見え方に問題があり、階手間で段差を怖がる。階手を繰り返していることもあり、母親が過保護気味である	衣服は母親が選んでいる。自分では同系色の物を選ぶことが多いが、ポイントを意識して着ている。兄がいる	衣服を選ぶこと、着ることは楽しいことであると思える	テレビを見たり、DVDを借りてきたりしている	見え方の問題から1人で買い物に行ったことはない。大人と一緒にだ買物できるし、スーパーなどは好きである	自分なりの思い入れがあるものはある	真面目で、何事にも真摯に取り組む。教師の話すことを聞いていて、それに対して考え自分なりの言葉で回答することができる。理解力4
P	自閉症。言葉による理解は苦手。作業は得意である。人の行動を見て同じようにしようとする	いくつかのパターンがあれば自分で決められる。肥満傾向もある。ゆったりとした着にサスペンダー付のズボンという衣服が多い。母親が病気で私服まで気が回らないこともある	違う衣服や着こなしにも興味を持つてほしい	作業性が高く、手伝いなどができる。静かな場所ですくつろぐことが好きである	1人でコンビニに行って、食べ物を買うことができる。財布を出してお金を取ってもらう	与えられたものは受け入れる	理解力は高くはないが模倣ができる。プリントなどは友だちの回答を写す。間違えることが嫌い。質問に関しては「楽しかった」などの決まった言葉やオウム返しで返す。授業内容は聞いてないが作業はできる。理解力1.5

研究の方法

1. 授業開発

知的障がい特別支援学校高等部教員2名と、家政教育担当の大学教員1名による検討会議を重ね授業を構想した。

大学教員が毎回授業を参観し、計画した授業の調整・改善を行いながら進めた。

2. 学習内容・活動や生徒の変容の分析

授業観察者が毎回授業を観察し、教師と生徒とのやり取りや生徒の様子を中心に記述による記録をとった。

授業者及び授業観察者3名が学習内容・活動および生徒の分析記入シートを持ち寄り、討議しながら省察した。

3. 修正授業案の作成

実践結果および分析結果により、修正授業案を作成した。

結果と考察

1. 開発した授業

(1) 授業構想の視点と仮説

上述した研究の背景や生徒の状況から、授業の開発にあたり次のような視点を含めることにした。

- ・「着る」ということを考える学習をとおして、自分自身を理解すること、人と関わること、自分で考えて判断したり選択したり意思表示・自己主張したりすることを基盤に据える。それにより、生活全般に対し、主体的にかかわったり自分で決めたりできるようになり、自立を促すことになる。自分でできることが増えると、自分に自信がもて、自分を肯定的に受け入れられるようになる。
- ・障がいをもつ人たちにとって、場面や状況の違いによって衣服の選択が異なるということを理解することは難しいことであるが、高校生を生きている生徒たちにはもっと「着る」ことを好きになってほしい、楽しんでほしい。
- ・衣服を選ぶ・買う・着るという行為を、できるだけ生活に即して総合的に学ぶ（予算を決

める、店へ行く、気に入った衣服を探す、試着する、値段を確認する、サイズを確認する、購入する、ファッションを楽しむ等）。

- ・学校研究主題「一人一人のニーズを読み取り育てる取り組み」の高等部テーマ「生徒の『なりたい自分』を支援する取り組み」の一環とする。
- ・大学附属の特別支援学校の利点を活かし、近い世代の着方を参考にしたり同世代の人が着ることを楽しむ様子を具体的に感じたりするために大学生の参加を組み入れる。
- ・好みや価値観を押し付けず、自分で考えさせ選ばせる。

(2) 授業の概要

○授業時期・時間

2011年1月～3月（2010年度授業）。ただし、「ほんもの学習」（校外学習）は2011年度7月に実施（「ほんもの学習」とは、カラオケ、プール、リサイクルショップの中から生徒が1つ選択し、実際に現地で活動する学校独自の校外学習である）。

「くらし」（家庭科）の授業（週1時限（40分））9時間および「ほんもの学習」3時間

○授業対象

特別支援学校（知的障がい・発達障がい）の高等部の生徒

1年生クラス7名（男子5名・女子2名）、
2・3年生クラス9名（男子6名・女子3名）

○授業のねらい

- ・今よりも「かつこいい自分になりたい」という気持ちをもとに、衣服に関する興味・関心を広げる
- ・着たい衣服や「自分に似合う」ということについて考え選択できるようになる
- ・サイズ・体型や色、デザイン、好みについて考えることをとおして自己を理解する
- ・着ることにより自分を表現し、他者とかかわり合う

○授業構成

次のような構成で授業を行った。1 年生クラスと 2・3 年生クラスでは異なる内容がある。授業には大学生 4 名が 2～3 回参加した。

2. 学習内容・活動の結果と有効性・課題（表 3）

実際の授業や生徒の様子を記述しながら、学習内容・活動の有効性を分析する。以下、教師＝T, 男子大学生＝Q・R, 女子大学生＝S・U, 生徒＝A～P と表す。

題材名：『着る』ということを考える

時限	日時	1 年生クラス	2・3 年生クラス
1	1/12	自分の身体のサイズを知ろう 友だちとペアになってお互いの身体のサイズを測り合う	
2	1/19	前時（サイズ測定）を振り返る 似合う色を見つけよう カラーコーディネート教材を使い、自分に似合う色について友だちの意見を聞く （自由服登校開始～授業終了まで）	
3	1/26	今日の自由服のポイントを発表しアドバイスし合おう① 選んだ理由や着こなしのポイントなどを発表し、教師や友達からアドバイスをもらいまとめる	
4	2/2	今日の自由服のポイントを発表しアドバイスし合おう② 大学生の着こなしについて聞いたり、質問したりしよう（学生参加）	
5	2/10	今日の自由服のポイントを発表しアドバイスし合おう③ ほんもの学習に着て行く「これが私の一押しルック」を紹介する 友だちや学生からアドバイスをもらう（学生参加）	
6	2/16	アイテムを知ろう 典型的なアイテムの写真を準備し、生徒と一緒にアイテムを分類する	ほんもの学習に着て行く「これが私の一押しルック」を紹介し確認する 友だちや教師からアドバイスをもらう
7	2/23	自分の好きな衣服の傾向を知ろう① 雑誌から、自分の好きな衣服を切り取り、大判画用紙にコラージュする	TPOを考えて衣服を選ぼう① 家庭科ワークブック（プリント）を利用し、吹き出しに自分が考える台詞を記入し、発表し合う
8	3/2	自分の好きな衣服の傾向を知ろう② 雑誌から、自分の好きな衣服を切り取り、大判画用紙にコラージュする	TPOを考えて衣服を選ぼう② 家庭科ワークブック（プリント）を利用し、吹き出しに自分が考える台詞を記入し、発表し合う
9	3/9	自分の好きな衣服の傾向を知ろう③ 好きな衣服の傾向について話し合う。作成したコラージュの中から自分の一番好きな衣服を選ぶ	（2 年生のみ） 授業「くらし」の 1 年間を振り返りまとめるを行う
次年度 7 月		リサイクルショップでショッピングをしよう（「ほんもの学習」） 7/8 「ほんもの学習」（カラオケ、プール、リサイクルショップ）に出かけるための衣服について、目的、天気、気温などを考慮しながら計画を立てる 7/12 リサイクルショップ S で 1,000 円以内の買い物をする。買う理由を明確にし、衣服は試着し判断する 7/13 当日に着た自由服の写真を貼付したワークシートに、買ったものや感想を記入し、リサイクルショップでの活動を振り返る	

表3 学習内容・活動の有効性

学習内容・活動	学習内容・活動の有効性・課題、生徒の反応・様子		
	授業者A	授業者B	観察者C
自分のサイズを知る(計る)	・[有効ではない] ・自分のサイズを知っていると通販などで、衣服が注文できるかと考えて実施した ・数値を出すものは正確さが要求される。測るときの各部位の正しい場所、メジャーの角度やよみとりが難しかった。どこをどう測ればよいか、メジャーの数字をどう読み取るかがわからなかった様子。生徒同士で測ったが不正確で、後日教師が測り直した ・数値が何につながるかの理解が難しいようであった ・身長・体重を意識し、S・M・Lがわかればよいと思われた		・[改善が必要] ・自分のサイズを知ることは必要だが、生徒だけで正確に計測するのは難しいと思われた ・計測により自分の身体のサイズを知ると同時に、他者との空間的距離を感じるのにいいのではないか。身体を触れ合うことに抵抗のある生徒はいなかったが、いる場合は配慮が必要である
カラーコーディネートをして似合う色を見つける	・[どちらかといえば有効] ・12色の布を顔に合わせる。見ている生徒が似合うと思ったら、○のカードを上げる。そのカード数を数えて「似合う」を数値化したので、友だちが思う自分に似合う色が分かったわけではない ・12色は多いかもしれない。最後の方には生徒の集中力が切れたようにも思われた ・印象なので、とりあえずあげておくという生徒もいた ・後日、ここで「似合う」と言われたからと初めてエンジ色のTシャツを買った生徒がいた(N)	・[有効] ・生徒たちにとって、①色により自分が明るく・暗く見えたりするものだということがわかった。②色にも自分の好きな色と似合う色が必ずしも同じにはならないことがわかった。③今まで似合うと思っていなかった色が似合うということがわかった生徒もいた ・生徒は、友だちの似合う色を見つけようと興味・関心を持って取り組んでいた ・似合う色を知り、その後自由服に取り入れた生徒もいた	・[有効だが改善が必要] ・色による見え方を正確に判断するのは難しい。人により意見が異なる ・この学習でよかった「自分の似合う色」を取り入れて、着こなしを考える生徒も複数いた(M・N・Oなど) ・色数を少なくし、「似合う」の他、色による印象や影響を取り上げてよい
授業のある日に自由服で登校する 自由服について、着こなしのポイントや選んだ理由などを発表しアドバイスし合う 自由服について、大学生からアドバイスや感想をもらう 大学生の着こなしを見て質問する	・[有効] ・具体的に「服を着る」ということで、友だちの着ている衣服が視覚的にわかり、感想を言うことができた ・自分で衣服を選ぶことを評価することで、自分で選ぼうという気持ちを育てることができた生徒もいた ・自分の着こなしについてどういけばよいかわからない生徒もいた。「色」「着心地」「好きな服」という3点について言うように伝えたら、「この服が好き」「この色が好き」という言い方はほとんどの生徒が言えるようになった ・着こなしについては「ほめる」方向で行い、改善点についてははっきりと伝えなかった。友だち同士が気持ちよく発表し合えたのはよかったが、ここをどうにかできないかという部分については指摘しきれなかった ・大学生の着こなしは、同年代のおしゃれについて、身近に見せてもらえるよい経験になった ・質問の仕方とか、ファッションの見方の具体的なhow toがあり、伝えられればもっと質問ができるかもしれないと思われた。衣服に興味をもったり、買うといった経験、かっこいい自分でありたいという自意識がまだまだ足りないが、経験も必要であると思う ・とても楽しみにして毎回自分で衣服を選ぶ生徒もいた(B)が、毎回同じ衣服の生徒もいた ・感覚的に苦手な衣服があり、いつも同じような傾向の衣服を着る生徒(H・I)がいた ・経済的な理由や、自己主張しないため「服を買って」といわない)いつも同じ衣服であったり、親と共有している生徒もいた ・親が高校生らしい衣服への意識をもっていないと、子どもは総じて「同じもの」や同じ傾向のものを着てくることが多い ・大学生が来るときはほとんどの生徒がうきうきしていた	・[有効] ・意識度に差はあるが、ほとんどの生徒が服装(コーディネート)に関心をもつようになった。一部の保護者も同様である ・自分の限られた衣服の中からのため、いつも同じパターンになってしまいがち ・自由服登校が少ない高等部生徒にとって、うれしそうに生徒が多かった ・発表したりアドバイスをしたりということ、普段何気なく着て来た服装を、ポイントを考えて着て来るようになった。着こなしにも、ポイントということを意識するようになった ・自分の着こなしポイントについて発表できる生徒は多かったが、友だちの衣服に関心を持ち、アドバイスをできる生徒は少なかった ・自分たちの憧れの大学生から、アドバイスや感想をもらうということで、この場面では皆とても授業に集中することができた。皆大学生からどんなアドバイスや感想を言ってもらえるか楽しみなようだった ・大学生の着こなし並びにポイントを見聞きし、「なるほど」と関心している生徒も見られた ・大学生のような着こなしをしてみたいと思っている生徒には、いろいろなポイント等を知ることができた。大学生からのアドバイスを参考にし、次回の着こなしを考えた生徒もいた	・[有効] ・数回続けて行うことが、次の点でとても有効であると思われた ・学んだことが実際の着こなしに活かされ、学習が蓄積されていった ・個人差はあるが、衣服への関心や自己表現や自己主張が徐々に向上していきのがわかった ・大学生の着こなしポイントは、生徒だけでは気づかない点が多く、刺激になった。学生の着こなしや学生からのアドバイスを参考にして、自分の着こなしに取り入れた生徒もいた

	・学習をする中で、初めてベルトを買ってもらったという生徒、自分で選んで買った衣服を着てくる生徒がいた	(Mなど) ・質問は一部の生徒に限られてしまう傾向があった	
アイテムを知る (アイテムの分類)	[どちらかといえば有効] ・基本的なアイテムについて具体的な用語とそのイメージをつけてほしいと思って取り組んだ。どこまで分けるかが課題。教師が分けて、それに沿った形で雑誌などから切り抜いたものを用意した。生徒はアイテムごとに切り抜きを分けて貼る活動を行った ・活動自体が分かりやすかった。ズボンやスカートなどのはっきりした名称は理解しやすいが、インナーやアウターという言い方は、状況にもよるので、理解は難しいかと思われた		[どちらかといえば有効] ・衣服の選択や組み合わせを広げるのに参考になる
雑誌の切り取り を使ってコラージュを行いながら、自分の好きな衣服の傾向を知る	[有効] ・実際に試着ができなかったこともあって、雑誌やチラシなどから好きな衣服を切り抜いた。ほとんどの生徒が行えた ・「次に買いたい衣服」をコラージュして、家庭で見てもらうという課題で行うこともできるし、生徒によっては、目的が明確になってより意欲的になる生徒もいるように思われる ・同じような衣服を着てくる生徒でも、いつもと違った感じの衣服を選んでいった。選択肢が多くても、コラージュをすると生徒それぞれの好きな衣服の傾向が表われ、それを保護者が見ることで、衣服を買う時の参考にしてもらえるかもしれないと思われた		[有効] ・ほとんどの生徒が楽しそうに取り組んでいた ・自己表現・自己主張の乏しい生徒でも、自分から進んで取り組み、それまで表わさなかった好みやこだわりを表現していた
校外学習(ほんもの学習)へ行く自由服を発表し合う	[有効] ・いつ行くか、どんな活動をするか、その日の気温など具体的に提示ができ、自分たちが楽しみにしていることなので「自分のこと」として考えられた。手持ちの衣服で考えるので「着こなし」のまとめとしての学習に位置付けられるとよいと思った ・それなりに理由をつけて衣服を選んだり、「色を考えた」という生徒もいた。図書館を選んだ生徒は、行くまでのことを考えず、「図書館の中は涼しいから」と長袖を選んでいった	[有効] ・今までの授業で学んだことを参考にして、自分なりに考えていいと思うコーディネートを発表することができた ・皆の発表態度は、考えてきたことを言おうと堂々としていた	[有効] ・状況設定が明確で現実的なのがよい ・これまでの自由服登校・発表のまとめと位置づけられる
TPOについて、 プリントをもとに学ぶ	[どちらかといえば有効ではない] ・TPOの学習となると想定する場がむしろ服装コードがある例(お葬式、結婚式、成人式 など)を出してしまうことが多い。学生なので「制服でもいいよ」という言い方をすることもあった ・頭でわかっている生徒は、わりと正しい答えを言う。イメージのもてない生徒にとっては、理解が難しいのではないかとと思われる	[生徒により有効] ・プリントの絵を見ながら説明を聞き、あらためて衣服のTPOがあることを知り、その大切さを知ることができた ・プリントの絵を見ながらの例え話などの説明は、興味をもって聞いていた	[生徒により有効] ・一部の生徒は自分の考えを言いながら関心をもって参加していた ・なぜそうするのか、おかしいのか考えを引き出すとさらによいと思った ・すでに理解している生徒にとっては正解の確認になる可能性がある。イメージのもてない生徒には、プリントだけで理解するのは難しいように思われた
ほんもの学習で行ったリサイクルショップで、自分で考えて購入する (Y店での模擬購入は、実施を断られた)	[有効] ・実際に試着ができたのがよかった ・自由な雰囲気で購入できたのはよかったが、本来はもっと販売員が口を出してくるかもしれない、押されてしまうかもしれない。「このようなものを探している」「予算は〇円」気に入らないときの断り方という練習にはならなかった ・試着が大事なことがわかったと実感できた生徒がいた ・気に入ったものがないから「買わない」という生徒もいて、これはこれでよいのである ・どの生徒も自分の選んだものを、行事など機会あるごとに着てきて見せてくれた ・(Y店での模擬購入) Y店では無理かもしれないが、協力者を迎えて衣服を買う時のロールプレーを試みることも考えるとうい	・(Y店での模擬購入) 衣服に興味関心があり、普段自分ではほしくても買う機会がない生徒には、実践させてみたかった	[有効] ・これまで学んできたことをもとに、実際の店舗で 1000 円以内の条件で挑戦することは、たいへん実践的な学習になる ・ほんもの学習では一部の生徒になるので、くらしの授業で全員が行うようにするとよい ・ほとんどの生徒は 1000 円以内で欲しいものを見つけることができ、行事など機会あるごとに着て来るほど気に入っていた。「本当に購入できる」という点では、Y店よりもいいかもしれない

(1) 自分自身のサイズを知ろう (第1時)

黒板に「おしやれ」と書き、「おしやれって何だろう？みんなで勉強していこう」と始める。「卒業したら着て行くものを考えたりしなければなりません。自分のサイズを知っていますか」と聞き、サイズ表示プリントを配布する。

はじめ、教師が計測のし方をデモンストレーションして見せる。同性同士2人組になって、メジャーを使ってバスト、ウエスト、ヒップを計測し合う。身長は、同日1限の身体計測で測っている。計測値とサイズ表示のプリントにより、自分のサイズ(S・M・L・O)を確認する。教師は「だいたい自分はSかMだなと覚えておいて買うとよい。お店だったら試着できるが、通販だと合っていないと返送して選び直したりが面倒」と伝える。

計測するときにはポイントを伝えて教師が補助したが、正確に測ることは困難であった。

(2) 似合う色を見つけよう (第2時)

教師は「似合う色を皆さんに採点してもらいます」と言って始める。色合わせを行う前に、好きな色、自分がよく着る色、似合うと思う色をプリントに記入する。クリーム、黄色、黄土、ピンク、赤、エンジ、水色、青、紺、若草、緑、深緑の12色の布見本(約40cm×50cm)を生徒の襟もとに当て、顔の映り方・印象を見る。1人ずつ全員行う。見ている生徒は、似合っていると思う色のときに○の札を上げる。

生徒は「紺は暗い」「ピンクいいね」「こっこのほうが似合う」などの意見を述べた。最後に感想を聞くと「顔が明るく見える色がわかったと思います」という発言があった。教師は「自分が似合うと思っている色と友だちが思う色が違うかもしれません。今日の学習でわかった自分に似合う色を参考にして、最後は自分の好みで衣服を選んでください」とまとめる。

生徒には「似合う」という概念がわかりづらいように感じられたが、この学習でわかった「似合う色」を参考にして、この後の学習で自由服

を選択する生徒が複数いた。他者からの見方を意識するのに、色という観点はわかりやすい。

「顔が明るく見える」「落ち着いた印象」といような聞き方をしたり、色数を少なくして「似合う色」を決めたりしたほうがわかりやすいのではないかと思われる。

(3) 自由服のポイントを発表しアドバイスし合おう (第3～6時) (2・3年クラスの「ほんもの学習」に着て行く「一押しルック」を発表し合おう)を含む)

本学習の期間中、授業のある日に継続して8回自由服登校を行った。登校した朝に写真を撮って、その写真をA4版ワークシートに貼り、衣服を選んだ人、今日のポイント、先生や友だちからのアドバイスを書く(写真1)。自由服登校日の数回は、一人ひとり今日のポイント、なぜ選んだか、今日の衣服を選んだ人を発表し、友だちからのアドバイスや感想をもらう。教師は、本人が述べた今日のポイントと、友だちからの感想やアドバイスを板書しながら進める(写真2, 3)。

選んだ理由やポイント、友だちへの意見を、教師は生徒から引き出し、教師の気づきを加えた。友だちや教師からの意見により、生徒にとって衣服に関する新たな視点や概念が加えられた。たとえば、生徒が柄や素材、着こなしに注目したときには、教師はそれに関連付けて取り上げた(①③⑥⑦⑪⑭⑮⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚)。赤と黒のチェックのフリースを着てきたAに対し、

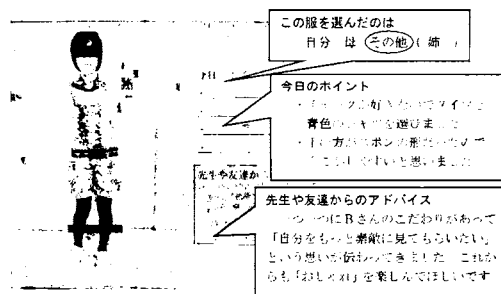


写真1 自分の着こなしについてのワークシート



写真2 自由服の着こなしの発表①



写真3 自由服の着こなしの発表②

見ていたBが「赤と黒のデザインがよい」と言い、教師は「Cも赤・黒・白のシャツを着ていたね。Rさん（大学生）も黒の上下だけど黒だけだとつまらないので中に赤のシャツを着ていたね」という場面があった（②③）。④⑬⑭⑮のようにアドバイスし合う場面も見られた。

この場面では、「似合う／似合わない」「カッコいい」という抽象的な表現でなく、「なぜ」「どこが」等と問いかけながら、それらの具体的な内容を生徒の感じ方や思いに表現させて引き出すことがもっとあってもよかった。また、着心地や肌触り、気分、寒さ・暑さへの対応、衣服による見え方の違いなどを出し合ったほうが、多様な衣服の意味を表すことができたのではないと思われる。

自由服紹介の1回目、2回目、3回目の教師と

生徒の発言は以下のとおりである（ほぼ発言のままの記述）。大学生が参加した時には、学生Q、R、S、Uの発言も含まれる。会話文末の数字①～⑮は3の分析で使用する。分析については3で述べるが、自由服登校および紹介を繰り返すなかで、生徒の着ることへの興味・関心や選択・判断、自己理解、自己表現、他者とのかわりの変化が見受けられた。

①自由服紹介1回目（自由服登校2日目）

<1年生>

T「Gさん、なんで選んだの？ どうして選んだの？」

G「運動しやすい。好きな服」

F「Gさん、そのズボン、カッコいい」

T「先生と同じジーパンでも形が違うね」

T「どうして選んだのですか」

F「よく着る。一番動きやすくて着てしまう」

T「なんで動きやすいの？」

F「ズボンが軽め」

T「余裕があるってことも動きやすさと関係しているね」

F「ジャンパーは、冬なので少し寒いから」

T「色は？」

F「茶か黒が好き。なんて暗い」

T「Cさん、この服の好きなところは？」

C「ない」

T「みんな、いいところを探してあげて」

B「チェック」

T「このズボン、コーデロイと言います。あったかいです」①

F「身長高いからこういう服、よく似合っている」

T「先生がまとめていいですか」

T「Cさんは黒が効いていますね。黒のパンツ、赤・黒・白のシャツ。自分で選べるといいね」

T「なぜ選んだのですか」

D「動きやすい」「好きなズボン」

F「服の色がまとまっている」（上下ベージュ系）

E「あたたかそう」

T「なぜ選んだのですか」

B「スカートもはきたかったけど、少年のようにもしたかった（サスペンダー付キュロットスカー

- トにした)。タイツをアーガイル柄にして、シャツを青にしました。ファッション誌を見て参考にしました」
- T「たくさんこだわりがあるんだね」
- A「(自分で話せないで教師が紹介)ズボン、ポケット。赤・黒チェック柄のフリース」
- F「Aちゃんの色がまとまっている」
- B「赤と黒のデザインがいい」②
- T「Cさんも赤・黒・白のシャツを着ていたね。Rさん(学生)も黒の上下だけ黒だけだとつまらないので中に赤のシャツを着ていたね」③
- <2年生>(男子大学生Rが参加)
- K「前回の色違いのセーターと前回と同じ皮のズボン」
- T「どうしてそれを選んだの？」
- K「このセーターは使っていない(この授業で着て見せていない)から」
- T「Kさんにこうしたらいいよなど言ってあげたいことを」
- M「動きやすそう」
- T「茶系でまとまっている。あたたかそうに見える」
- K「あたたかい」
- R「タートルネックが似合っている。デニムを合わせてもよさそう」
- M「レギンスでもいいんじゃない」④
- M「前回のカラーコーディネートで似合う色の1位がオレンジ、2位が青だったので、オレンジと青の入ったシャツにしました。下は前回と同じジーンズ」⑤
- T「下が同じジーンズでも、上を変えると雰囲気が違うね。Mさんの着こなし、どうですか」⑥
- J「ブルーの色が似合う」
- M「よかった」(友だちから「似合う」と言われて、ほっとしたうれしい様子)
- K「おもしろい感じのチェックがいい」(大きさの異なるチェックの組み合わせで、左右の袖の柄が異なるシャツ)⑦
- N「似合う」
- R「とてもかっこいいと思う。黒のインナーと黒のデニムだったら、赤のシャツでも緑シャツでも合うと思います」
- L(グレーと白のトレーナー、ブルーのジーンズ)
- T「先週はこんな格好でした(濃いグレーのトレーナーの写真を見せる)」
- M「前とイメージが全然違う」
- I「かっこいい。色(白)が似合っている」
- T「似合っているけど、残念なのが1つ。ここに食べこぼしがあります」
- R「薄めの色で全体の印象はかわいい。前回は黒っぽいワイルドなかんじ。どちらもよいと思います」
- P(早く前に出たが)(赤のフリースと茶色のズボン)「赤いのが好き」⑧
- T「Pちゃん、お気に入りの服なんだね」
- M「あったかそう。赤が似合う。ジーンパンにも合いそう」
- T「前回の似合う色で赤が2位だったね」
- J: 赤のパーカーと黒のジャージ
- R「赤と茶の組み合わせがよいと思います。ジーンパンだったら、大きめのパーカーも合いそうです」
- J「(パーカーの)帽子をかぶったら今っぽい」⑨
- T「インナーもパーカーもお母さんが選んだけど、ズボンは自分で選んだんだね」⑩
- I「赤色があたたかそう」
- K「パーカーが赤だからかわいい」
- T「似合う色の2位がエンジだったね」
- R「かわいらしいと思います。ジャージ(ボトム)もあったかいけど、ジーンパンだともっとかっこいい。フォーラスや堅町に行けます」
- N「(赤のチェックは)好きなシャツ。前は新しいジーンパンで、今日は前から持っていたもの」
- K「シャツのボタンがおもしろい」⑪
- M「シャツのほうが先週のパーカーより似合う」
- R「とてもかっこいい。3枚の違う色のシャツを重ね着しているのがよいと思います。あたたかくなったら袖を少しまくったらいいと思います」
- N「自分で選んだ。(前回の)似合う色がエンジ、赤だった」
- O「(上衣)白い服とクリーム色、(ブルージーンズ)。この前みんなが似合うと言ったのでこの色(クリーム色)にしました。自分で選んだ」(今までは選んでいないが、自分から「次は自分で選ぶ」と教師に伝えた)⑫
- R「パーカーも似合っていると思います。全体の色の組み合わせがよいと思います」

- I「あたたかそうな服を着て来ました」「自分の好きな色（グレー）、あとシマシマのシャツ（パーカーの下に）。お母さんが選びました」
- M「自分で選べるといいね。来週は自分で選んで着たらいんじゃない」⑬
- J「袖のところは中と同じシマのシャツ？」⑭
- R「上と下の合わせ方が合っています。中に派手なシャツを着ているのがおしゃれ。寒ければ下はジーパンかタイツにするとよいと思います」

②自由服紹介2回目

- <1年生>（男子学生Rが参加）
- B「おばあちゃんが買ってくれたチェックのシャツを今日は着たかった。それに合わせてパーカー。下は何に合わせるか迷ってジーパンにしました」
- R「色の使い方がとてもかわいらしい。「迷った時はデニム」というのは自分もよくやります。デニムは合わせやすいです」
- C「（自分の衣服について）チェック柄が似合う。あたたかいズボン」
- R「下が黒いのがかっこいいと思います。ほかのズボンに挑戦してもよいと思います」
- D「（自分の衣服について）やっぱり着やすい。ズボン、あたたかい。自分で選んだ」
- T（教師が前回の写真と比較し）「色合いが似てるね（ベージュ系）」
- R「上下同じ色で合っていると思います。別の明るい色にしてもいいと思います」
- E「インナーとメキシカン風のパーカーが黒。お母さんと相談して決めました」
- F「くやしけどかっこいい」
- R「黒とデニムの組み合わせがかっこいいです」
- A「（自分の衣服について）物語の主人公」
- T「誰の？」
- A「勇者の服、さとし、コスプレ」
- R「あったかそうな格好。このモコモコした素材は合わせるのが難しいけど、よく合っています」
- F「年の近い兄貴と相談して決めました。黒が好き。『インナーが見えるように』と兄のアドバイス」
- R「組み合わせが合っています。中を見せるのがよいと思います」
- F「（自分からインナーの背中に描かれたドラゴン柄

を見せる）ドラゴン柄が好きで何枚も持っています」

- G「（自分の衣服について）着やすさ」
- F「上の素材と下の素材が似ている（ジャージ素材）。運動のときに着る。素材的には体操服と似ている」⑮
- 「Gくんのかっこいい姿見てみたい」
- R「動きやすいけれど、ジャケットとかデニムにするともっとおしゃれになり、出かけられると思います」

- T「衣服を考えるのは苦しい？たのしい？」
（複数生徒）「たのしい！」（明るい声）

<2年生>（休み時間）

学生が来て授業時間内に自分が着てきた自由服の説明ができなかった。休み時間に、自分から観察者や学生に自分の衣服や着こなしの説明をする生徒がいた。

- J「お母さんが2つ出した中から自分で選びました」⑯
- T「なぜこれにしたの？」
- J「どうしても（かわいらしいものより）かっこいいの（ユニセックスな印象の衣服）を選んでしまうんです」⑰
- M「先週のRさん（学生）みたいに（上下黒にした）。インナーは先週より低い襟にしました（先週はタートル、今週はハイネック）」⑱
- O「初ベルト、自分で選んだ」（見えるようにベルトを上に出して着ている）⑲
- K「今日は自分で選んできた（ピンクのトレーナーとジーパン）」

③自由服紹介3回目

- <1年生>（男子学生R，女子学生S，Uが参加）
- B「店員さんからこれとこれ（シャツとチュニック）が似合うと言われたので。寒いのでレギンスを合わせて。お姉さんにショートパンツをはいたほうがいいと言われたのでこれにしました」
- U「シャツのチェックとレギンスのチェックが合っていてかわいい」
- D「ズボンも服もあたたかいから。たまに変わった服もいいかなと思って（いつもはベージュ系上下で犬のワンポイント付。今日は茶のパンツ）。動きやすい、歩きやすいから」⑳

- T「前の2回はワンちゃんのポイントだったね。どちらも自分で選んだんだね」
- S「上下同系色で合わせていいと思います」
- C「黒（ズボン）に合うシャツ。お母さんが選んだ」
- T「自分で選んでくるといいね」
- R「赤のシャツが黒に合っていると思います」
- T「後ろのシャツが見えているのはおしゃれですか」^㉑
- C「そうです」
- T「Rさんもシャツのチラ見せしていましたね」
- E「上がグレー、下が黒い動きやすいズボン」
- U「グレーと黒が同系色でまとまっていると思います」
- B「オレンジとか緑とか入れるといいんじゃない」^㉒
- F「少しぶかぶかすぎない？」^㉓
- R「上の服がダボッとしているので、もう少し身体に合ったサイズのほうがすっきり見えると思います」
- A「自分の好きな戦士の服」
- S「色使い（黄色・紺・白の組み合わせ）がおしゃれだと思います。黄色のパーカーの前中央の白いファスナーと紺のラインがアクセントになっています」
- F「Aちゃん黄色似合う」
- T「明るく見えるのも大事だね」
- G「デニムをはいてきました」
- T「先週のRさんのアドバイスからデニムをはいてきたんだね」^㉔
- R「上下合っていて、どこにでも出かけられると思います。デニムだといろいろ組み合わせられます」
- B「デニムの青とトレーナーにも青が入っていて、今日は青がポイントじゃない？」
- T「ジーパンの裾の折り曲げはファッションですか」^㉕
- G「そう」
- E「G君と自分の素材は同じ（フリース）」^㉖
- T「3回私服登校の発表をしましたが、だんだん変わってるなあと思うのがうれしいです、おもしろいです。写真を撮る時もポーズをとるとよいと思います」
- <2・3年生>（男子学生Q, R, 女子学生S, Uが参加）
- K「友だちからのもらいもののセーターといつものジーパン」「サイズがぴったりだったことがうれしい」
- J「（Kに対して）冬に似合う服だと思う」
- L「3色が気に入りました」
- H「（Lに対して）黄色が似合う」
- P「（自分の衣服について）赤いのが好きです」
- T「選んだのは？」
- P「自分」（今までは母親）
- U「（Pに対して）サスペンダーが似合っていると思います」
- H「白い色が好き」
- J「（Hに対して）白が似合っている」
- T「（Hの）パーカーの内側に柄（チェック）があるね」
- J「中もチェックですか？袖は？」
- Q「パーカーの内側のチェックが見えるようにしたらいいと思います」^㉗
- R「ボーリングに動きやすい。襟元のひもはほどいたほうがよいと思います」（学生Rが直接直してあげると、Hは嬉しそうな表情）^㉘
- （複数生徒）「そっちのほうがよい」
- J「コートとマフラーのコラボ。上の服は兄が昔着ていた服で（私の）お気に入り。自分で選びました。お母さんがだめだと言ったけど、今日は強引に着てきました。やっぱり自分が好きな服を着ると朝から気持ちがいいですよ。ズボンは昨日と同じ。スケートに行くので手袋も」（前回は、母親の好みを押し付けられ自分で選べなかったことに怒りながら心情を吐露していた）^㉙
- I「（Jに対し）白（上衣）が似合っている。冬らしいコート、マフラー。コート（フード）に毛が付いている」
- U「色がシンプルだけど、マフラーがポイントになっています」
- J「これ、何の柄？」^㉚
- T「チェックと言います」
- S「手袋にある紫のポイントがかわいいです」
- O「ポイントはベルト、青。自分で全部選びました」（授業前までは怖くて衣料品店に入れなかった。授業が始まってからベルトを2本自分で選んで購入した）^㉛
- L「（Oに対して）紺色のパーカーが気に入りました」
- M「インナーの青とパーカーが似合っている」
- R「見えないところ（ベルト）にも気遣うのはおしゃ

れです」

O「みんな、ありがとうございました。」㉔

N: 黒のベスト、シャツ、Tシャツ、ジーパン（写真2）

N「(みんなが) 似合うと言ったエンジをTシャツに入れて着ました」㉕

M「黒のベスト、シャツ、Tシャツが似合っている」

Q「M君のように好きな色を全面に出すというのもいいけど、さりげなくエンジン色（好きな色）を中に入れてくるのもかっこいいと思います。ベストとシャツの組み合わせがおしゃれだと思います」

I「春らしいイメージ。花の模様がかわいい。自分で選びました」（これまでは母親。前回Mに「来週は自分で選ぶといいね」と言われた）（昨年他校に転出した教師が参観していたら、「S先生に感想を言ってほしい！」とうれしそうに手を広げて自分の着こなしを見せる）㉖（写真2）

K「お花とストライプでチェックがかわいい」㉗

J「灰色と赤い色のお花、こっち（右側）だけアメリカの旗みたい（左右非対称な柄）」㉘

T「ほんとだね。左右の柄が違っておもしろいね」

Q「色の組み合わせや模様、チェックの透ける感が春らしい。ボーリングに行くときは寒いから、タイツをはいたほうがいいかもしれません」

Q「(自分の今日の着こなしについて説明を求められる) 今日はこの後中学校に行くのでスーツで細めのズボンで来ました。タイピンとカフスを付けています」

M「社会人らしい服装だね」

S「スケートに行く格好をしてきました」

I「おしゃれで、足があたたかそうです（タイツ）」
（自分の素足を比べているのかもしれない）

(4) 大学生の着こなしを見て聞こう

大学生4人が、くつやアクセサリを含めたトータルコーディネートについてこだわりや好み、工夫を含めて紹介する（写真4）。各人の発表の後、生徒が質問や感想を述べる。授業後に、その日の生徒の自由服についてのコメントを、学生が各生徒のプリントに記入する。生徒は、学生の着こなしに関心をもって質問していた。

生徒間だけでは出にくいポイントが学生から出されて、着こなしの多様な視点が加わった。その後の自由服登校では、学生の着こなしやアドバイスを参考にして自由服を選ぶ生徒が見られた（G, M, O）。これまで持ちえなかった視点が加わり着こなしの幅が広がったり、学生からアドバイスをもらうことで自己を知ることにつながったりした。しかし一方で、流行や消費文化を批評することなく受容する側面だけを示したことにもなり、この点は反省し検討する必要があるだろう。本授業では、学生のこだわりや工夫を中心に紹介したが、TPOによるファッションの違いを取り入れることもできるだろう。以下は、学生の衣服と着こなしポイント、生徒の発言である。

R: 薄ピンク色のシャツ・紺とグレーのセーター・茶のパンツ・ベルト・カーキ色のジャケット・黒のブーツ（写真4）

- ・背が高いため、自分の体形に合った細身の服を着てすらっと見せるが好きである
- ・茶のパンツとカーキのコートの組み合わせが好



写真4 学生の着こなしの発表（第4時）

- き。コートはボタンを閉めると違った印象になる
- ・シャツは、紫がかった薄いピンク色とちらっと見える隠れた柄が気に入っている
- ・セーターは就職しても着られるかなと思って買った(4月から就労)

K「ズボンとブーツが合っていてすらっとしていて
かっこいい」

I「コートとズボンが似合っている」「芸能人のよう」

O・H「緑色(コート)がかっこいい, 似合っている」

M「シンプルでスマート」

I「ピンク色(がいい)」

J「クール」

U質問「なぜブーツインにしているのか」

R「ブーツをアピールし、シュッと見せる」

S質問「なぜシャツの裾をセーターから出しているのか」

R「お気に入りのシャツをチラ見せしている」

Q: 白地にエンジ系のチェックシャツ・チェックのマフラー・グレーのパンツ・赤のベルト・黒のジャケット・黒のブーツ(写真4)

- ・ダボッとしたものが好きである
- ・黒・白・グレーなどの無彩色が好きだが、中に着るシャツに色のあるものを着る
- ・自分には寒色系が合っていると思うので、ブルーのシャツにした
- ・シャツはパンツの上に出したいので丈が重要ポイントだが、身長に合ったちょうどよい丈が見つかりにくい
- ・赤のベルトをチラ見せする
- ・背が高くないので、ジャケットは腰までの長さのものにする
- ・首に何かがないと落ち着かないので、マフラーやストール、タートルネックなどを身に着ける
- ・黒のジャケットは気に入って4万円で買った。後ろに大きくマリアの絵が刺繍してある
- ・せっかくのブーツなので、ブーツを主張するようにブーツインにして履く

(写真での参加のため、質疑なし)

S: 薄黄色のブラウス・紫のカーディガン・黒のホットパンツ・黒のリブタイツ・チェーンネックレス・オフホワイトのダウンコート・黒のロングブーツ(写真4)

- ・きっちり系が好きである
- ・最近バーゲンでパンツとブラウスを買った
- ・寒いのでロングコートとロングブーツにした
- ・ブーツにパンツの裾をいれること(ブーツイン)もできる。ブーツのリボンは取り外しできる。長く伸ばすこともできる(3種類の履き方ができる)
- ・黒のパンツは合わせやすい。サロペットが付いていて、つけても外しても着られる
- ・足が細く見えるようにリブのタイツにした
- ・ブラウスは、働いても着られるかなと思って買った(4月から就労)。家で洗濯ができる

K「ホットパンツとタイツがかわいい」

M「ブラウスがおしゃれ」

L「黄色のブラウスがよく似合う」

I「ブラウスのフリフリがかわいい」

B「いいなあ。お姉さんみたいになりたい」「上も下もかわいい。ブーツのリボンもかわいい」

F「完全に決めている」

E「ネックレス, すごい」

R質問「バーゲンで、なぜ黒のパンツとブラウスを買ったのか」

S「黒色のパンツがほしかった。サロペットが取り外しできて便利かなと思った。ブラウスはパンツに合わせて買った」

U質問「なぜ紫のカーディガンにしたのか」

S「落ち着いた色がいいと思い、冬なので黒めの色にした」

U: ノルディック柄マキシワンピース・紺のカーディガン・長めのペンダント・黒ダッフルショートコート・薄茶色のムートンブーツ(写真4)

- ・寒いのでマキシ丈のワンピースにした。冬らしいノルディック柄を選んだ
- ・ダッフルコートは、フードの中のカフカ感が好きである
- ・全体に落ち着いた色なので、ピンクの腕時計と大きなペンダントを身に付けた
- ・ムートンのブーツは暖かい。上を折ることもでき2通り楽しめる

I「ワンピースがあたたかそう」

H「ワンピースは雪景色があります」「青(紺)のカーディガンが似合いますね」

M「あったかそう。冬のイメージがよい」

B「え〜かわいい」

J「トナカイ模様のワンピースとムートンブーツの組み合わせがいい」「ダッフルコートは短めもあるんですね」「今日のポイントは？」

U「ノルディック柄です」

その他、「どこで買っているのか」「いくらくらいか」「今までの中で一番高い服は」「ジャケットのボタンをはずして中を見せてください」「何系が好きか」(学生「ジャストサイズが好き。シャツが好き。少し地味めの色が好でそこにさし色を入れる」)などの質問が出された。

(5) アイテムを知ろう (1年第6時)

基本的なアイテムについて、用語とその具体的なイメージをもつために行う。教師が、雑誌などから衣服の部分を取り取ったものを各アイテム複数枚用意する。雑誌から切り取った“衣服”を、生徒がアイテムごとに分けて貼る活動を行う(写真5)。

	MEN	WOMEN
ジャケット		
カーディガン		
セーター		
ブルゾン		
パンツ		
スカート		
スウェーチス		
コート		
		アクセサリー

写真5 アイテムの分類表

(6) 自分の好きな衣服の傾向を知ろう

(1年第7・8・9時)

雑誌から自分の好きな衣服を切り取って、大判画用紙に自由に貼る(コラージュ)。自分のコラージュを発表し感想を言い合う(写真6)。

ほとんどの生徒は楽しそうに取り組み、コラージュには好みや個性が表れている。7人中6人のコラージュからは衣服の好みの傾向が読み取れた。自己理解の1つになるのではないかとされる。親への依存が大きく自己表現や自主的行動の少ないCが、自ら進んで好きな衣服の写真を切り取り次々貼っていった。コラージュには中年世代が着る衣服の傾向が見られたが、「男らしくてかっこいい」とコメントを付けていた。Dは、着て来る自由服は親の購入したページ系のトレーナー・パンツスタイルがほとんどで、着ることやおしゃれに興味を示していなかったが、コラージュでは写真6のようにパステル調のカラフルでフリルや花柄のものを切り貼りしていた。Aは「自分の好きな衣服」ではモチベーションが上がらなかったで、「(彼の大好きな)キャラクターに着せたい服を選んでもいいよ」と言うのと、切り取った衣服の上に飾りを描いたり、自分で衣服をデザインしたりしてどんどん描いていった。アニメの世界のイメージから離れることができなかったが、ふだんの授業と異なりたいへん意欲的に取り組ん



写真6 「私の好きな服」のコラージュ
(生徒Dの作品)

だ。コラージュを家庭での会話や買い物、自主的行動に利用できるのではないと思われる。

(7) TPOを考えて衣服を選ぼう

(2・3年第7・8時)

いくつかの場面が描かれたイラストを見て、吹き出しにコメントを記入するワークブック(プリント)を用いる。警官らしくない服装をしている人、結婚式にカジュアルな服装をしている人などについて、自分が掛ける言葉を吹き出しに書き発表する。

一部の生徒は自分の考えを述べながら参加していたが、正解を確認するにとどまったかもしれない。また、場面や状況をイメージできない生徒には、プリントだけで理解するのは難しいように思われた。

(8) リサイクルショップでショッピングしよう

(次年度)

学習の最後に、衣料品店の協力を得て、試着や店員とのやり取りを行い、試着した服を写真に撮り、次時に写真をもとにポイントを発表しアドバイスし合う計画を立てた。店舗がワンフロア、商品が安価、男女の服の品揃えのよさ、学校からの距離等を検討し、Y店に計画書とともに依頼したが断られ実現できなかった。希望する一部の生徒になるが、それに代わる活動として「ほんもの学習」でリサイクルショップSに行った。「ほんもの学習」とは、カラオケ、プール、リサイクルショップの中から生徒が1つ選択し、実際に現地で活動する校外学習である。本授業を受けた6名(3年生を除く約半数)の生徒がこのコースを選んだ。出かける前の授業で、「ほんもの学習」に出かけるための衣服について、目的、天気、気温などを考慮しながら計画する。リサイクルショップで、1000円以内の買い物をする。買う理由を明確にし、衣服は試着し判断するようにする。出かけた翌日の学習では、当日の自由服の写真を貼付したワークシートに、買ったものや感想を記入し、前時の

活動を振り返る。

友だちと一緒に試着したり感想を聞き合ったりしながら、6人中5人が衣服を選んで買うことができた。購入した生徒は、この時買った衣服を着て夏祭りや夏合宿に参加し、着て来た衣服のことを自ら話していた(表2)。Eは時間がなくなると試着せずに買おうとしたが、試着させると色やデザインが似合わないことがわかり、「試着をすることが大事だとわかった」と感想を書いた。Eは500円のTシャツ2枚を購入し、行事のたびに着てきて、教師や友だちに見せていた。

教師が1人で全員の生徒に対応するのは難しいかもしれないが、「どうして似合わないのか」「どこが気に入ったのか」「何を迷っているのか」等と教師からの問いかけ・働きかけによりさらに考えさせるとよいだろう。

3. 生徒の変容

授業者2名と観察者1名の記録をもとにした討議により、生徒の様子や変容を表2、表3にまとめた。表2は1年生クラスの生徒、表3は2・3年生クラスの生徒である。また、2(3)の会話文も取り上げる。以下の①～⑥は2(3)会話文の番号箇所を示す。

授業のねらいにあげた、衣服への興味・関心、考えて選択、自己理解、自己表現、他者とのかわりに関する箇所を抽出しながら分析する。これらに関する箇所は重複しているので分けて述べる。

特に変化が大きかったのは、1年B、E、2・3年J、M、N、Oである。E以外は自閉症でない生徒である。自閉症でない生徒のほうが、学習によるプラスの変化がみられた。

Bは授業前から衣服への関心が高く、雑誌を見たり姉と相談したりしながら色やデザインを考え自分で選んでいた。授業に積極的に参加し、友だちにアドバイスするようになった。大学生の参加を楽しみにし、大学生の着こなしに関心を示した。リサイクルショップでは友だちと相

表4 1年生生徒の様子・変化

生徒・性別	学習前の生徒の実態	ねらい・めざす学習後の姿	学習過程での生徒の様子・変化 (授業者・観察者の気づき、保護者の話、教師の話等)	学習後の生徒の様子(学習直後～1年後) (授業者・観察者の気づき、保護者の話、教師の話等)
A (男子)	・衣服にはあまり興味・関心がない ・母親が購入し選んだ衣服を着ている。自己主張しない	・自分で自由服を選ぶことができる	・自分の着こなしには興味がないが、漫画のキャラクターに着せるデザインコラージュには嬉々として参加し、たくさんのデザインを描く ・自分の衣服の説明の時に、「戦士の服」など、自分の大好きなゲームやアニメの世界とダブるような言い方をする ・「衣服を自分で選ぶ」と言った方がよいと思うようになる	翌年度の「ほんもの学習」でリサイクルショップに買い物に行く。「ほしいものがない」と購入しない
B (女子)	・衣服、おしゃれに興味・関心がある ・自分で考え衣服を選んで着る ・母親と衣服を買いに行く	・自分で選んだ衣服のポイントを説明できる	・着ることに興味があり、学習に積極的に参加する。授業を楽しんでおり、大学生が来る時も嬉しそうである ・姉からのアドバイスやファッション誌を参考にしながら、自分で考え衣服を選んで着る ・自分の着こなしに自信を持って自由服のポイントを説明したり、友だちにアドバイスをしたりする(第4時「(上衣グレー・ズボン黒を着てきた友だちに)オレンジとか緑とか入れるといいんじゃないかな」「デニムの青とトレーナーにも青が入っていて、今日は青がポイントじゃない?」)	翌年度の「ほんもの学習」でリサイクルショップに買い物に行く。友だちや教師と相談しながら、Tシャツとアクセサリーを買う。アクセサリーは行事等で身に付けて来て、友だちや教師に見せる
C (男子)	・衣服にはあまり興味・関心がない ・母親が購入し選んだ衣服を着ている。自己主張しない	・自分で自由服の一部を選ぶことができる	・他の授業ではあまり積極性は見られないが、コラージュの時に自分から衣服を選んで切り貼りする ・親世代の男性の着るような色合いやアイテムを選ぶが、それを「男らしくてカッコいい」とコメントを付けることができる ・最後まで自分で自由服を選んで着ることはなかったが、「衣服を自分で選ぶ」と言った方がよいと思うようになる	言葉等では表現できないが、コラージュから好きな衣服の傾向を知ることができた
D (女子)	・衣服にあまり興味・関心がない ・母親が購入し選んだ衣服を着ている ・アースカラーのトレーナーが多い	・友だちの着こなしを見て、着たいと思える衣服の幅が広がる	・着て来る自由服はあまり変化がなくほとんどはアースカラーだが、コラージュではパステルカラーのフリルや花柄のふわっとした印象の衣服を選ぶ ・同じ傾向の衣服をよく着て来るが、「それが好きだから、色が好きだから、着心地が好きだから」と言えるようになる	翌年度の「ほんもの学習」でリサイクルショップに買い物に行く。友だちと一緒にTシャツを選び試着をして買う。ユニセックスなものを選ぶ。行事の時に着てくる
E (男子)	・衣服にあまり興味・関心がない	・着ることに興味・関心をもつ ・自分で衣服を選んだり買ったりできる	・自由服初日は制服を着て来た。「制服を着ることが正しいこと」という思いがあったものと思われる。しかし、友だちの思い思いの自由服の様子を見て、そのこだわりは崩れ、次回から自由服で登校するようになる ・「正しくありたい」という思いが強いの、友だちの様子を見て、自分で選ぶ方がよりよいことや、着こなしのポイントの言い方などを学習していった。自分なりに選んで説明をしようとしていた ・「衣服を自分で選ぶ」ことや自分なりに着こなしを考えることがよいことだと思うようになる ・先輩の着こなしを見たり、学生の着こなしに関心を示す	翌年度の「ほんもの学習」でリサイクルショップに買い物に行く。時間がなくなると試着せずに買おうとしたが、試着させると色やデザインが似合わないことがわかり、「試着をすることが大事だとわかった」と感想を書く。好みの色で探していた。予算に縛られちょうど1000円になる買い物を(500円のTシャツ2枚を購入)。行事のたびに着てきて、教師や友だちに見せる。「Y(衣料品店)で買った」と教師に話す
F (男子)	・衣服にあまり興味・関心がない	・自分で自由服を選ぶことができる	・興味・関心がないわけではないが、特に高いわけでもなく授業に参加する ・兄からアドバイスをもらって着るものを考えてくることがある ・友だちの自由服への感想やアドバイスをよく発言する	翌年度の「ほんもの学習」に着ていく衣服についての事前授業で、「これを新しく買ってもらった」と母親に買ってもらった(本人は買い物に行っていない)衣服を着てきて嬉しそうに説明する
G (男子)	・衣服にあまり興味・関心がない ・スポーツウェアブランドの衣服を着ることが多い	・自分で自由服を選ぶことができる	・自分で新しく選ぶということに自信がないようで、いつも同じようなタイプのものを着て来たり、説明をしたりする ・同じ傾向の衣服をよく着て来るが、「それが好きだから」と言えるようになる ・スポーツウェアやジャージ系が多いが、第4時で学生が「動きやすいけれど、デニムにするとおしゃれで出かけられる」とアドバイスすると、次回はデニムをはいてくる	翌年度の「ほんもの学習」でリサイクルショップに買い物に行く。Jリーグの公式シャツを見つけると、迷うことなく選ぶ。行事等で着てきて教師に見せる

表5 2・3年生生徒の様子・変化

生徒・性別	学習前の生徒の実態	ねらい・めざす学習後の姿	学習過程での生徒の様子・変化 (授業者・観察者の気づき、保護者の話、教師の話等)	学習後の生徒の様子(学習直後～1年後) (授業者・観察者の気づき、保護者の話、教師の話等)
H (男子)	・衣服に興味・関心がある ・母親が購入した衣服を、自分で選んできている	・自分で選んだ衣服のポイントを説明できる ・他の人からのアドバイス聞く	・あまり変わらない ・こだわりが強く、「白が似合う」という強い思いがある ・「白いパーカーのフードの内側のチェック柄が見えるようにするとよい」という大学生からのアドバイスを喜ぶ	・人に自分のファッションを見せるのを好む ・友だちへのアドバイスをさせるとよかった
I (女子)	・衣服に興味・関心がある ・母親が選んだ衣服を着ているが、気に入った衣服を着た時、皆に見てもらいたい気持ちをもっている	・自分で自由服を選ぶことができる ・他の人へアドバイスできる	・学習の終盤には、自分で選んだ衣服を着てくるようになる ・感覚過敏で写真撮影を嫌がることが多いが、この学習での自由服登校日の撮影は嫌がらない ・授業2回目の昼食時に、授業をした教師に「テレビショップしますか」「通販しますか」「Y(衣料品店)に行きますか」と質問したり、「この服Yで買ったんです」「この色似合いますか」「(質問に対し)テレビでピンクのトレーナー買ったんです」「髪染めたいです」「髪長くしたいです」「雑誌見えています」等と衣服・ファッションについて自分からよく話す ・昨年他校に転出した教師が参観していた時、「S先生に感想を言ってほしい!」とうれしそうに手を広げて自分の着こなしを見せる ・第5時(自由服紹介3回目)では、初めて衣服を自分で選んで着て登校した	・表現発表会で、前年の先輩を見ていて「ワンピースが着たい」と言い、ワンピースを着る ・「歌のお姉さんになりたい」と言う
J (女子)	・衣服にはあまり興味・関心がない ・母親が選んだ衣服を着ることが多い。自分で選ぶとモノトーンが多い	・自分で自由服を選ぶことができる ・着ることに興味・関心をもつ	・学習の途中から、自分で自由服を選んで着て来るようになる ・第4時「お母さんが2つ出した中から自分で選んだ。(なぜ?)どうしてもカッコいいの(中性的なもの)を選んでしまう」 ・第5時「お母さんはこれと言ったけど、私は兄のお下がりのこの服が好きなので着て来ました。好きな服を着ると気持ちいいですね。」 ・第5時(自由服紹介3回目)では、スケートに行くためのコート、マフラー、手袋も合わせて紹介した ・友だちの自由服の柄やデザインに関心をもち発言していた	・客観性をもたせたい(鏡などを利用する)
K (女子)	・衣服に興味・関心がある ・自分で色やデザインの組み合わせを考え、衣服を選び着ている	・自分で選んだ衣服のポイントを説明できる ・友だちの着こなしを見て、着たいと思える衣服の幅が広がる	・あまり変わらない ・休み時間に、参観者(教員・学生)に自分から自分の着てきた自由服の説明をしようとする(ピンクのトレーナーとジーパン) ・友達(自由服)の柄やボタンに関心をもち発言していた(絵を描くことが好きであることと関係しているのかもしれない)	・大学祭でのコスプレを楽しむ ・校外学習でウィンドーショッピングをしたときに、ファッションブルな明るい色のワンピースを指して「着てみたい」と言う ・他者からの視点、客観性をもたせたい
L (男子)	・衣服にはあまり興味・関心がない ・母親が選んだ衣服を着ている ・自分の衣服のサイズを知っている	・自分で自由服を選ぶことができる	・あまり変わらなかったが、着て来る色は少し変わる	

M (男子)	・衣服に大変興味・関心がある ・自分で色やデザインの組み合わせや流行を考え、衣服を選び着ている	・自分で選んだ衣服のポイントを説明したり、友だちにアドバイスしたりできる	・友だちにアドバイスをできるようになる（「次は自分で選んだらよいと思う」など） ・友だちや学生からのアドバイスを活かして着ようになる ・「いや～先生、これいい授業だね。またするといいよ」「1週間に1回自由服登校いいね」と教師に言う ・休み時間に、参観者（教師・学生）に自分から自分の着てきた自由服の説明をする ・「似合う色」の学習や大学生の着こなしを参考に、自由服を選ぶ（「先週のRさんみたいに、上下黒にしました」）	
N (男子)	・衣服に興味・関心がある ・両親が選んだ衣服を着ている	・自分で自由服を選ぶことができる	・授業以外のときも、自分で選んで購入した衣服を教師などに見せる ・周りの評価を気にし、どうすればよいか聞ける ・母親が「せっかく買ってやっても着ない服があつて、なんで着ないのだろうと思っていたけれども、この子にとって好きではない服だったということがわかりました。自分で選んで買った服はよく着ています。自分でもっと選ばせようと思いました」「この時期だからこそ意味がある学習だった」とこの授業を評価する ・休み時間に、参観者（教師・学生）に自分から自分の着てきた自由服の説明をする	・「(カラーコーディネートで) この色が似合うと言われたから」とエンジ色のTシャツを購入して見せてくれる
O (男子)	・衣服にあまり興味・関心がない ・自分の衣服のサイズを知らない ・母親が選んだ衣服を着ている ・衣服を買いに行くのを病院に行くより嫌う	・自分で自由服を選ぶことができる	・衣服への興味・関心が高まる。自分で選んで購入したベルトを、自分から教師に見せる。ベルトへこだわようになる ・母親と一緒に買い物に行き、選ぶことを楽しむようになる ・母親が「服を買いに行くのが嫌で、店の中では病院で点滴を打つ時よりも嫌な顔をしてうなだれていた子でしたが、衣服の勉強が始まってからは店に買いに行くのを嫌がらなくなりました」「この時期だからこそ意味がある学習だった」とこの授業を評価する ・休み時間に、参観者（教師・学生）に自分から自分の着てきた自由服の説明をする ・それまでは自分で衣服を選んでいなかったが、自分から「選ぶ」と教師に伝え、自由服登校2日目から自分で選んで着て登校した ・第2時の授業でわかった「自分に似合う色」を着こなしに取り入れて着て登校した	・「ほんもの学習」でリサイクルショップに行く。買いたいものが1600円だったため「今度お母さんと買いに来ます」と言う（ほんもの学習では1000円以内という約束だったため）
P (男子)	・衣服にはあまり興味・関心がない ・母親が購入した衣服を着ている	・着ることに興味・関心をもつ	・あまり変わらなかったが、後半では上衣の色が赤に変わる ・自由服の発表では、教師が指示する前に前に出ようとし、早く前に出てみんなに見せたい様子だった ・後半で、自由服を選んだのは「自分」と言うようになる ・第2時の授業でわかった自分に似合う色を着こなしに取り入れて着て登校した	

談しながらTシャツやアクセサリを購入し、学校の行事のときに身に付けて来て、教師や友だちに見せていた。

Eは自由服登校初日は制服を着て来た。日ごろから「正しくありたい」という強い思いがあり、「制服を着ることが正しいこと」という思いがあったものを思われる。しかし、友だちの思い思いの自由服の様子を見て、そのこだわりは徐々に崩れ、以後の自由服登校を楽しむようになり、自分なりに選んでポイントを説明するようになった。リサイクルショップでの買い物では、試着してみて色やデザインが似合わないことがわかり、実践後の感想に「試着することが大事だとわかった」と書いていた。買ったTシャツを学校行事のたびにきて来て教師や友達に見せていた。

Jは、授業前は衣服への関心があまりなく、母親が選んだ衣服を着ることが多かった。2(3)に記述したように、学習の過程で「インナーもパーカーもお母さんが選んだけど、ズボンは自分で選んだ」(9⑩)→「お母さんが2つ出した中から自分で選びました」(16),「どうしても(かわいらしいものより)かっこいいの(ユニセックスな印象の衣服)を選んでしまうんです」(17)→「コートとマフラーのコラボ。上の服は兄が昔着ていた服で(私の)お気に入り。自分で選びました。お母さんがだめだと言ったけど、今日は強引に着てきました。やっぱり自分が好きな服を着ると朝から気持ちがいいですよ。ズボンは昨日と同じ。スケートに行くので手袋も」(29)と変わっていった。自由服発表2回目あたりから自分で選びたいという意識が始め、母親の好みを押し付けられ自分で選べなかったことに怒りながら心情を吐露していた。3回目の発表の頃には、自己主張し母親と衝突しても自分の意思を通すようになり、好きな衣服を自分で選んで着る気持ちよさを述べるようになった。3回目の自由服発表ではスケートに行くために、コートにマフラーや手袋を合わせて紹介していた。自由服紹介では、友だち

の衣服の柄などをよく見ており、発言していた(14③⑥)。Jの次の課題としては、他者の意見を取り入れながら自分で選ぶ柔軟性や客観性をもてるようにすることである。全身鏡を用いて比較しながら選んだり、友だちとかかわりながら選択したりするなどの手立てが考えられる。

Mは、授業前から衣服への関心がたいへん高く、色やデザイン、流行を考え自分で選んでいた。学習過程では、授業で見つけた似合う色や大学生のアドバイスや着こなしを参考に、自分をよりよく見せる着方を工夫していった(「前回のカラーコーディネートで似合う色の1位がオレンジ、2位が青だったので、オレンジと青の入ったシャツにしました」(5),「先週のRさん(学生)みたいに(上下黒にした)。インナーは先週より低い襟にしました(先週はタートル、今週はハイネック)」(18))。これまで持ちえなかった観点を知ることや、あらためて自分を知ることにつながると思える。また、Mは友達へのアドバイスが的確で、よい影響を与えていた。Iに「次は自分で選んだらよいと思う」(13)と言うと、Iは次回自分で選んできた。Mは「いや〜先生、これいい授業だね。またするといいいよ」「1週間に1回自由服登校いいね」と教師に言い、授業を評価していた。

Nは、授業前から衣服への関心があったが親の選んだ衣服を着ていた。学習するなかで「かっこよく見せたい」という気持ちが強くなり、色の違うシャツの重ね着やベストを着るなど、着こなしを工夫したり教師に聞いたりするようになった(33)(写真2)。母親は「せっかく買ってやっても着ない服があつて、なんで着ないのだろうと思っていたけれども、この子にとって好きではない服だったということがわかりました。自分で選んで買った服はよく着ています。自分でもっと選ばせようと思いました」と教師に述べた。この学習によって、親が子どもへのかかわり方や子どもの自立について考えるようになった。また、「この時期だからこそ意味がある学習だった」と授業を評価した。

Oは、この授業の前には、「服を買いに行くのが嫌で、店の中では病院で点滴を打つよりも嫌な顔をしてうなだれていた子でした」と母親が述べるほど衣服を買いに行くのを怖がっていた。しかし、この学習が始まって早い段階から意欲的に参加した。この学習の前までは母親が選んだ衣服を着ていたが、自由服登校2日目には「自分で選んでくる」と教師に宣言し、前時の色合わせ学習の時に他者評価で「似合う色」だったクリーム色を取り入れて着て来た(⑫)。自由服紹介2回目の日には、親と一緒に買い物に行き自分で選んだベルトをうれしそうに教師や学生に見せ「初ベルト(今日初めて身につけた)、自分で選んだ」と話していた(⑬)。自由服紹介3回目には、「ポイントはベルト、青。自分で全部選びました」と自分のこだわりのベルトと色について説明した(⑭)。友だちや学生から色やベルトをほめられると「ありがとうございました」とお礼をのべた(⑮)。授業の後半になると、自分で衣服を選んだり、上下の組み合わせや合うベルトを考えたり買ったりするのを楽しんでいた。この学習が始まってから、ベルトを2本自分で選んで購入しているが、学生の影響があったことも推測される。男子学生は2人とも、自分のトータルファッションの紹介の時に、ちらっとしか見えないけれどベルトにもこだわっている話をしていた。授業について、母親は「この時期だからこそ意味のある学習だった」と評価していた。

F, G, I, Kには衣服に関する行動にやや変化が見られた。

Fは兄からアドバイスをもらって着るものを考えたり、新しく買ってもらった衣服のことをうれしそうに教師に話したりしていた。授業では、友だちの衣服への感想やアドバイスをよく発言していた。

Gは、スポーツウエアやジャージ系の衣服がほとんどであったが、大学生からのアドバイスを参考にして、デニムを合わせるようになった(⑯)。

Iは知的には高いが自閉的で会話や行動にこだわりことが多い。うつむきがちなIが、3回目の自由服紹介では、「春らしいイメージ。花の模様がかわいい。自分で選びました」と紹介した。これまで母親が選んでいたが、前回Mに「来週は自分で選ぶといいね」と言われたことが影響しているものと思われる。普段は写真を撮られるのを極度に嫌がるが、本授業での写真撮影は嫌がらずに参加していた。前年度他校に転出した教員が参観していたところ、「S先生に感想を言ってほしい!」と笑顔でうれしそうに手を広げて自分の着こなしを見せていた(⑰)(写真3)。

Kは衣服への関心はあまり高くないが、絵を描くことが好きなことと関係があるのか、友だちの衣服の柄やボタンには関心を持ち発言していた(⑱⑲⑳)。自由服紹介2回目の時には、休み時間に自分から教師や大学生に自分の衣服について話してきた。ふだんの衣服はシンプルなセーターとパンツがほとんどだが、大学祭ではコスプレを楽しんだり、校外学習のウィンドーショッピングではファッショナブルな明るい色のワンピースを指して「着てみたい」と言った。

C, D, Pは、衣服に関する行動にはほとんど変化がなかったが、授業では主体的な様子が見受けられた。

2(6)で述べたように、自己主張や自主的行動の少ないCが自発的に自分の好みをカラーージュに表現し、選んだ理由も述べていた。Dは自己主張が少なく本授業による変化があまりなかったが、3回目の自由服登校では「たまには変わった服もいいかなと思って」(㉑)と、いつもとやや違う衣服を着て来た。また、カラーージュでは、いつも着ている衣服とは色調やデザインが異なるパステル調の色彩でフリルや花柄のものを集めて表現していた。潜在的な思いが表出されたと考えられる。カラーージュは、言語による表現の困難な生徒には効果的な活動であるように思われる。Pは自閉症で自己主張が少なく授業による変化が小さかったが、授業後半では衣服

の色が変わったり自分で選んだりしていた。また、自由服紹介では自分から前に出て衣服を見せるのを喜んでいる様子がうかがえた(⑧)。

授業による衣服に関する変化が特に見られなかったのは、1年A、2・3年H、Lで、自閉的傾向やこだわりの強い生徒である。しかし、楽しみながら主体的に取り組む授業もあった。Aは、コラージュ作成の時に、授業の本来の目的ではないが、授業に対し意欲的でなかったため、本人の好きな漫画やゲームのキャラクターに着せる衣服を切り取ることを認めたところ、切り取りに飽き足らず自分でキャラクターの衣服をデザインして次々描いていった。Hは、衣服への関心はないが、自分で選んできており、学生からのアドバイスをうれしそうに聞き入れていた(⑳・㉑)。Lにはほとんど授業による変化が読み取れなかった。

授業前に、自分で衣服を選んで着るのは、1年B、2・3年H、K、Mのみであったが、授業後には、1年E、F、G、2・3年I、J、N、Oも自分で衣服を選ぶようになった。1年C、D、2・3年L、Pは、自分で選ぶまでにはならなかったが、自分で選んだ方がいいと思うようになった。この学習がさらに継続したり、教師や家族がはたらきかけたりすることにより、自分の意思を示すようになる可能性があるだろう。

授業前から衣服への関心が高く、授業に意欲的に参加し、授業によるプラス変化が大きかったBやMは、本授業のリーダー的な生徒である。自由服発表の際、彼らの着こなしやこだわりが他の生徒へ影響を与えるだけでなく、友だちへのアドバイスや意見が生徒への刺激になったりかかわり合いを生み出したりしていた。さらに、彼らの存在を活用した授業により、生徒同士のかかわりの活性化や自意識を自覚することにつながるができるものと考えられる。

4. 修正授業案

以上の実践と分析により、授業案を以下のよ

うに修正した。

○修正のポイント

- ・1～3月の約13時間を想定する。
- ・授業の目標での修正点は、修正前は「衣服を選択できる」であったが、修正授業案では「購入できる」まで目標を高める。
- ・着ることに関心が高い先輩や大学生の着方を具体的な参考例として提示することや、自分で自由に購入できるようになる姿をめざすことを動機づけとする。
- ・できるだけ具体的で、日常的な実践につながる活動を行うようにする。衣服を購入するプロセスを総合的に学ぶ活動にする。
- ・身体のサイズを知る学習と似合う色を見つける学習の時間を短縮する。いずれも衣服を購入の際、役立つと思われるので削除はしない。
- ・身体のサイズや似合う色、好きなデザイン、アイテムについて知り、また購入のロールプレーにより衣服の選択や購入ができるようにする。質問の仕方、試着のしかた、断り方、支払方を含め、衣服購入の一連のプロセスをロールプレーを行いながら理解する。次時の衣料品店に行く前の練習になる。
- ・学習期間中の授業日(週1回)に自由服で登校する。毎週の衣服の選択に学習の成果を活かして、自分で選ぶことを意識づける。自分の衣服や着こなしに、より関心をもつように働きかける。授業では、他者からの見え方・印象や本人の着心地・気分を丁寧に表出し合い、着ることの多様な感覚、意味、評価を肯定するようにする。本研究で実践した授業では、具体的でわかりやすいだろうと考え「かっこいい」「似合う／似合わない」という表現を用いたが、修正授業では抽象的な二元論や一面的なとらえ方にならないように注意する。
- ・学習の総まとめとして、リサイクルショップで実際に購入する。また、購入した衣服を洗濯しアイロンをかける。

○授業のねらい

- ・自分の特徴や好み、状況、他者の視点・意見などから考えて、衣服を選択したり購入したりできるようになる
- ・「着る」ということをとおして、サイズ・体型や色、デザイン、好みについて考えたり、他者からの視線を意識したりして自己を理解する
- ・着ることにより自分を表現し、他者とかかわ

り合う

- ・衣服に関する興味・関心から、生活全般に関心を広げ、主体的に活動を行う

まとめと課題

- ・授業者・観察者による学習内容・活動および生徒の変容の分析から、開発し実践した授業はおおむね有効であった。特に、自由服登校と発表、先輩や大学生の着こなしの例示、雑

○授業構成

題材名：『着る』ということを考える

1 時限	・自分の身体のサイズを知ろう 身長・胴回りから、自分のサイズ（S・M・L・LL, 7・9・11・13号）を確認する ・似合う色を見つけよう カラー・コーディネート教材を使い（赤・黄・青・黒・白）、自分に似合う色や印象・気分などの色の影響を知る
2	・授業のある日に自由服で登校し、発表しよう（自由服登校は衣生活の授業の最後まで続く） 自分や家の人の選んだ衣服で登校し、誰が選んだのか・着心地や気分、着こなしのポイント（どうして好きなのか、どのようなときに着るのかなど）を発表する。先生や友だちからのアドバイスをもらい、まとめる 鏡を見て、自分の着こなしを確認する。生徒によっては、生徒複数で鏡に映り他者の視点も用いる
3	・学生の着こなしについて話を聞いて参考にしよう ・それぞれの自由服について、学生からアドバイスをもらおう
4	・自分の好きな衣服の傾向を知ろう①（コラージュの作成） 雑誌から、自分の好きな服を切り取って大判画用紙にコラージュする
5	・自分の好きな衣服の傾向を知ろう②（コラージュの発表） 好きな服の傾向について話し合う。コラージュの中から自分の一番好きな衣服を選び説明する
6	・アイテムを知ろう 雑誌などから切り取った典型的なアイテムを、生徒と一緒に分類する 想定したいくつかの状況で、アイテムの組み合わせを考える いくつかの状況（ボーリング、就職面接等）を示しながら、TPOに応じた着方を考える
7	・校外学習（「ほんもの学習」等）へ着て行く自由服を発表し合う 目的、天気、気温などを考慮しながら計画を立てる（TPOの学習を含む） 各自のポイントを発表しアドバイスし合う
8 9	・衣服購入のロールプレーを行おう 買うものと予算を決める、気に入った衣服を探す、値段を確認する、サイズを確認する、店員へ質問する、試着する、断る、支払う等を練習し、評価し合う ・リサイクルショップでの買い物計画を立てよう（買いたいもの（デザイン、色、サイズ等）、なぜそれを買うのか、予算（1000円以内）等）
10 11	・リサイクルショップでショッピングをしよう（店への協力依頼） 8・9時の練習を活かして、商品を見たり、試着をしたりして、店員とやり取りする（アドバイスの聞き方、試着の方法、断り方などについて体験する）
12	・10・11時のリサイクルショップでのショッピングを振り返ろう 店で購入した衣服を着て登校する。買いたいと思ったものは何か、なぜ買いたいと思ったか、試着してどうだったか、店員とどんな会話をしたか、どんな質問したか、困ったことはあるか、困ったときはどうすればいいか等
13	・リサイクルショップで買って、前時に着てきた衣服を洗濯しよう（生徒によってはアイロンをかける）

誌の切り取りからコラージュの作成, リサイクルショップでの買い物は, 授業のねらいとしてあげた, 衣服への関心, 衣服の選択, 自己理解, 自己表現, 他者とのかかわりに対して, 効果的な活動であった。

- ・特に学習効果が大きかったのは, 自閉症でない生徒であり, 自閉的傾向をもつ生徒には, 学習内容・活動や手だてに検討を要する。
- ・本実践ではできなかった衣服購入のロールプレーを取り入れ, 模擬練習をしてリサイクルショップでの本番の買い物をすることで, はじめに述べた「買う」という行為の一連を体験し学ぶことができるだろう。
- ・本実践による自己理解や自意識への影響は明確にはできなかったもので, 今後の課題である。
- ・今後は, 学習が蓄積できるように学年ごとの3年間の衣生活学習カリキュラムを作成する。
- ・本授業では, 着ることに無関心・無頓着であったり自分で衣服を選択していなかったりする生徒が多い実態から, また一度に多様な意味を提示することは生徒を混乱させるのではないかと予想し, 生徒が衣服に関心をもつことや自分で自分の衣服を選択するということに重点を置いた。そのため, 衣服の選択にあたりデザインや好みに偏重し, 消費文化を批判的分析することなく生徒に提示してしまった。「着ること」の多面性, 「装う」という意味をもっと学習に取り入れる検討をしていきたい。

本授業を終えて, 授業者は『衣』の世界の深さをあらためて感じた。哲学者でファッションや着ることに関する著書が多い鷺田清一(鷺田, 1998)は, 「ひとがそれなしで生きていけないもの, それについての問いかけはしかし, しばしば人間には答えが見いだせないものです。…エンドレスで考え, 議論しつづけるなかで, 最終的な答えはなくとも, そのつどある決定にはいたりうるものです。…誰もが服を着ないでは生活できないのに, 衣服についてはうわべの間

題, 外見の問題ということ片づけ, あまりしつかり論じられてこなかったのではないかと思います。」と述べ, 衣服が想像以上に深く心や社会に関わっていると考えている。衣服や着ることをテーマに, 人とかかわること, 生活を楽しむこと, 社会との距離や関係を模索すること, とらわれから解放されること, 見方・考え方を問い直すことなど, さまざまな方向へ学びと思索を広げることができるだろうと考えている。これらのことをふまえた衣生活の授業づくりを引き続き検討していきたい。

引用・参考文献

- 伊藤圭子 (2005) 軽度知的障害児に対する代表例教授法を用いた栄養教育の開発 (第1報) —栄養教育授業モデルの組み立て—。日本家庭科教育学会誌 47-4, 318-326
- 伊藤圭子 (2005) 軽度知的障害児に対する代表例教授法を用いた栄養教育の開発 (第2報) —授業モデル開発と実践および学習過程の分析—。日本家庭科教育学会誌 47-4, 327-334
- 伊藤圭子 (2005) 軽度知的障害児に対する代表例教授法を用いた栄養教育の開発 (第3報) —学習の促進要因の検討—。日本家庭科教育学会誌 48-1, 3-9
- 間賀田清子 (2003) みんな満点, みんなが主役, くらしを彩るファッションショー。家庭科教育研究者連盟。家庭科研究 2002 年度研究年報, 71-77
- 中川早苗 (1989) “現代社会で被服が表現するもの”。表現としての被服。日本家政学会 (編)。朝倉書店, 126-147
- 中川房子・藤田美由紀 (1997) TEACCHプログラムによる「さをり織り」指導—自閉性障害者の行動障害の改善との関連について—。日本家庭科教育学会誌 40-1, 9-14
- 雙田珠巳・鳴海多恵子 (2006) 肢体不自由養護学校における衣生活教育の現状と課題。日本家庭科教育学会誌 48-4, 289-297
- 鷺田清一 (1995) ちぐはぐな身体—ファッション

ンって何？．筑摩書房

鷲田清一（1998）ひとはなぜ服を着るのか．日本放送出版協会．152'（139-152）

謝辞

本研究の授業実践において，中田淳平氏（教

育学研究科修士課程（家庭分野）1年）・西田安希氏（教育学部家政教育コース4年）・藤田恵里加氏（教育学部家政教育コース4年）・村井義弘氏（教育学部理科教育コース4年）に協力をいただきました（授業実践時の所属）。心より感謝申し上げます。